

公民館コラボ LAB



福岡市共働事業提案制度 事業の進捗状況資料 (令和元年度)

公民館コラボ LAB 実行委員会

福岡市公民館支援課
NPO 法人ドネルモ

(福岡市共働事業提案制度 平成 29 年度採択事業)

1 共働のきっかけ・必要性

1. 共働のきっかけ

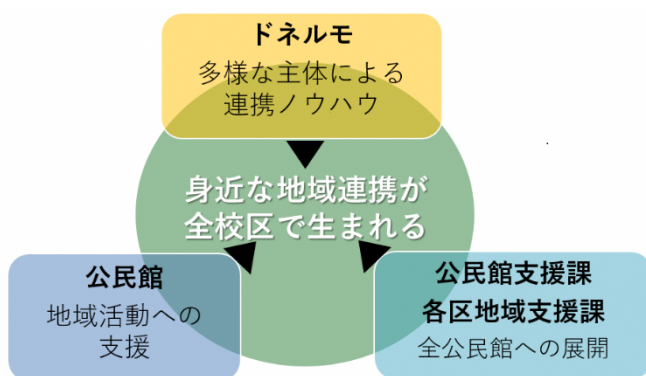
- 福岡市では、平成28年度から自治協議会や企業、商店街、NPO、大学、行政がお互いの長所や資質を活かして共に協力し合って地域の未来を創り出す「共創のまちづくり」を進めている。
- その中で、NPOが小学校区毎に設置されている公民館の「集まる」、「学ぶ」、「つなぐ」機能に着目し、地域内の連携により地域コミュニティ活動を活性化するうえで、公民館のこれらの機能を有効に発揮する仕組みが必要と感じ、提案を行った。
- 福岡市は共創のまちづくりを進めるうえで公民館の機能を活かした仕組みづくりを模索していた中、連携促進に関しノウハウを有するNPOからの提案を受け、当該事業を受けることとなった。

2. 共働の必要性

NPOはこれまで、地域の豊かな支え合いの形をつくる「地域デザインの学校」（H26-28年度共働提案事業）や介護事業所の地域連携への支援などを通して、地域課題の解決につながる多様な主体による連携事業のコーディネートに取り組んできており、連携のノウハウを持っている。

一方で、公民館は、小学校区を単位とする地域において、もっとも人材や団体の情報が集まる場所であり、館長及び公民館主事が地域のつながりを活かしながら、課題解決の支援を行っている。福岡市公民館支援課は各区地域支援課と連携しながら福岡市内の全ての公民館に対して働きかけを行うことができる。

こうした状況から、地域内外の連携を促進するノウハウを持つ提案団体と、地域情報を集約し地域支援に

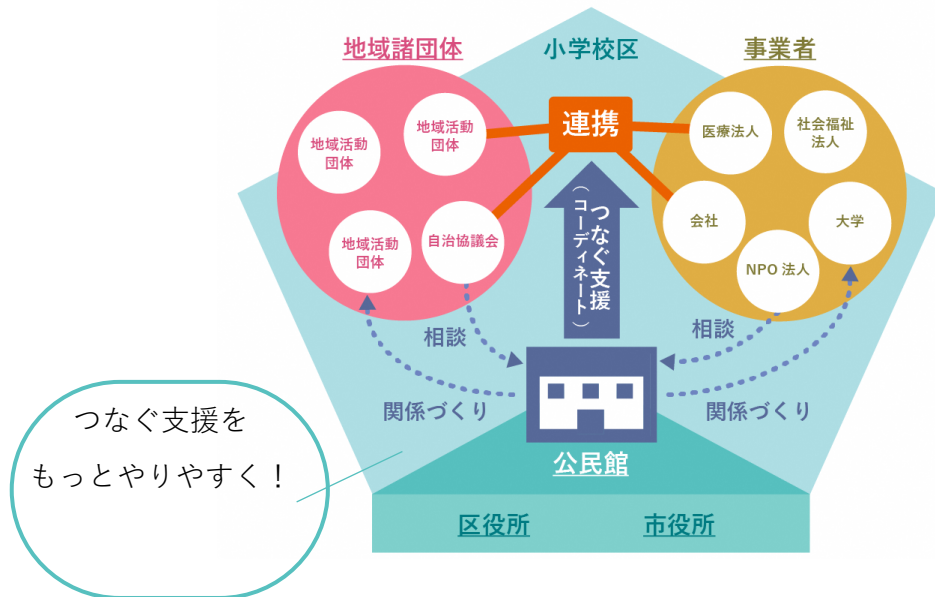


関わる公民館、そして市内の全公民館に働きかけが可能な公民館支援課・各区地域支援課が、「地域におけるまちづくりの活性化に向けて、地域諸団体と事業者との連携事業の促進を図る」という目的に向けて、実効性の高い「公民館コーディネート機能」のプログラムを開発及び環境整備を行うことで、全市的に地域単位での連携事業が促進されることが考えられる。

2 事業目的

本事業の目的は、

『地域におけるまちづくりの活性化に向け、公民館のコーディネート機能を活用することにより、地域諸団体と事業者との連携事業の促進を図る』ことである。



また、単に連携を促進するだけでなく、その連携によって生じる人との出会いや発想が、住民による新たな活動や学びの連鎖を生み出し、地域の新しい担い手の発掘へと繋がる。さらに、それが持続可能な地域づくりの基盤となっていくということも視野に入れながら事業を行っていく。

3 事業目標（令和元年度）

① 公民館による地域連携支援に関するノウハウ等を集めたハンドブックの作成

現在の地域コミュニティでは生活圏域レベルで医療福祉や外国人との共生、LGBT 分野の啓発など新たな課題への取り組みが必要な一方、マンパワー不足や専門性の観点から地域諸団体、公民館の対応にも限界がある。前年度に行った公民館への調査により、市が実施する出前講座以外には事業者との連携をほとんど行っていない館がある一方で、地域資源（事業者）に恵まれていない地域においても、多様な主体（企業、大学、学校、NPO、病院・介護事業所）と創意工夫が凝らされたオーダーメイド型の連携を既に行っている公民館もあることが分かった。それら

を一部の公民館の属人的な営みにとどまらせることなく、福岡市内の全公民館に広めていくために、連携のノウハウを掲載したハンドブックの制作を行う。

② 公民館による地域連携支援を促進するための仕組みや行政による新たなサポート体制等に関する実行プランの策定

前年度に行った地域支援課ヒアリングにおいて、各区地域支援課の公民館への働きかけ（サポート）の違いが存在し、背景には地域連携（共創）の意義や必要性への疑問、理解不足もあるということが明らかになった。また、公民館が作成する計画書・報告書等でも地域連携を記載する欄がなかったりするなど、地域連携を促進、評価する行政側の取り組みに関しても改善の余地があることが分かった。それらを踏まえ、公民館職員、地域支援課職員からなる作業部会を結成し現場の声を活かしたサポート体制の構築にむけて検討を進めていく。

③ 公民館内外への公民館による地域連携支援に関する情報及び意識共有

公民館の調査時には「連携の必要性を感じない」という声も聞かれたが、前年度、公民館フォーラム等を通じて、連携に対しての意義や必要性への理解は進んできた。今年度はそれを一歩進めて、実際の連携につながる行動変容を目指して情報及び意識の共有を行なう。また、事業者サイドの地域連携のニーズ、特に医療・介護事業所などから地域連携についての意向や意欲が強い一方で、地域と関わる際のハードルが高いことなどが確認されている。それらのハードルとなっているものについて、あらためて公民館と事業者とで一緒に考え、お互いの情報を共有する場をつくる。

4 事業内容

① 公民館による地域連携支援の仕組みづくり

ア) 公民館コラボ LAB ハンドブック作業部会の開催

・事業目的：公民館による地域連携支援に関するノウハウなどを集めたハンドブックの内容検討、仕組みの見直しや新たなサポート体制の構築につながる公民館運営方針・運営報告に関する書式の見直しなどについて、現場に従事する館長、主事、地域支援課職員と共に検討し、現場感があり、実効性の高い意見の反映を図る。

・実施時期：6月～3月

・実施回数：6回

・出席者：館長2名（館長会から選出）主事3名（館長会から推薦）地域支援課2名（公民館支援課が依頼）コラボ LAB 実行委員会



第 1 回作業部会

- ・開催日時：2019 年 6 月 7 日（金） 15:00～17:00
- ・開催場所：福岡市役所 15 階 1502 会議室
- ・出席者： 11 名
- ・協議内容： ①本作業部会の主旨・位置づけ
 ②全館ヒアリング・アンケート調査の結果の共有
 ③今後の検討内容について（ハンドブック・公民館運営方針報告書書式・行政サポート）

第 2 回作業部会

- ・開催日時：2019 年 7 月 10 日（水） 15:00～17:00
- ・開催場所：あすみん セミナールーム A
- ・出席者： 13 名
- ・協議内容：ハンドブックの内容について（イメージ・目的の共有 / 章立て）

ヒアリング

第 2 回目の作業部会において、公民館ごとに事業者とのつながり方、主催事業の企画方法、地域課題のを見つけ方などに独自のノウハウがあり、詳細に聞きとり、ハンドブックに盛り込むべき内容であるということが判明した。しかし、作業部会の時間内で公民館館長・主事の意見を詳細に聞き取ることが難しかったので、個別にヒアリング調査を行なった。

第3回作業部会

- ・開催日時： 2019年9月11日（水） 14：30～16：30
- ・開催場所： あすみん セミナールームC
- ・出席者： 12名
- ・協議内容： ①ハンドブックの章立てについて
②. 公民館運営方針・運営報告の書式改訂について

第4回作業部会

- ・開催日時： 2019年11月29日（金） 14：30～16：30
- ・開催場所： 高取公民館
- ・出席者： 14名
- ・協議内容： ①公民館運営方針・運営報告の新書式の提案と意見収集（「事業者」の定義）
②行政サポートについて
③ハンドブックの内容について（たたき台をもとに）

第5回作業部会

- ・開催日時： 2020年1月17日（金） 14：30～16：30
- ・開催場所： 姪浜公民館
- ・出席者： 13名
- ・協議内容： ①ハンドブックの内容について（たたき台をもとに）
②公民館運営方針・運営報告の書式改訂について
③. 行政サポートについて

第6回作業部会

- ・開催日時： 2020年3月11日（水） 14：30～16：30
- ・開催場所： あすみん セミナールームA
- ・出席者： 13名
- ・協議内容： ①公民館運営方針・運営報告の新書式の決定
②行政サポートの内容決定
③ハンドブックの仮完成版をもとに意見集約

【まとめ】

- ・ 「ハンドブックの制作」に関しては、作業部会の中だけではなく、追加で行なった個別のヒアリング等で細かなところまで手順や心構えを詳細に聞き取る機会を得ることができた。そのおかげで、ハンドブックは公民館業務の基本から、複雑な事業の企画の仕方までを網羅した内容とするものになった。また、ハンドブックを活用する対象者について、当初実行委員会側では、就任3年までの「初任者」とおいていたが、数年～十数年のキャリアを持つ公民館職員にとっても事業者との連携については、情報やノウハウが不足しており、チャレンジの余地がある業務であることが明らかになった。それを受け、ベテランのチャレンジをも後押しするような全ての経験年数の公民館職員が活用できるものと、ハンドブックと位置付けを変更した。
- ・ 「運営方針報告の書式の見直し」に関しては、事業者との連携について記述する欄と、連携事業、連携支援を行なった回数を実績として記載することとし、書式案を完成させた。協議を地域支援課とも一緒に行ったことで、より現場の実態に即したものとなった。また、運用面では、新しく設けられた記述欄や数字は、連携への意識向上のためを目的としており、各公民館の活動を評価するものではないという点を、令和2年度以降に実装する際には周知していくことが確認された。
- ・ 「行政サポート」に関しては、連携先の候補が校区住民や課題解決に適切であるかの見極めが難しいため、サポートが欲しいという声が上がった。それを受けて、講師リストの一元化と市内148館の事業の事例共有として「いちおし事業」をとりまとめて情報共有を行うこととした。特に、「いちおし事業」のリスト化は業務の負担軽減という面においてだけでなく、事業を計画する際の新たな視点の発見につながり、お互い問い合わせることで、公民館同士の繋がりが生まれるものとして、内容や運用についての検討を進めていきたい。

イ) 地域連携支援に関する伴走支援

・事業目的：既に実践している事業者との連携をより良くしたい公民館や、新たに地域連携支援を行おうとする公民館への伴走支援を行う。そこから得られた手順やノウハウ等を公民館フォーラムで事例発表を通じて共有し、さらにどの公民館でも実践できる「連携モデル」として一般化・仕組み化してハンドブックの内容に反映させる。

・実施時期：9月～1月



堅粕公民館 「新たな出会いご縁をつないで」—JR九州との連携—

- ・課題：館長のはたらきかけで地域のたくさんの事業者とつながった。定年による退任後も継続していきたい。
- ・伴走支援の内容と成果：これまでの、館長が行ってきた関係の作り方の棚卸しと、つながりを作るノウハウを明文化した。また、館長対事業者（駅長）との繋がりを公民館（地域）対事業者の繋がりとできるように意見交換等の場を持ち相互の意思確認を行った。その結果、来年度以降の事業についても主事を窓口として連携事業を行うこと

が確認され、事業の計画に向けて、協議を進めている。

宮竹公民館 「定年退職後の男性の地域へのきっかけ作り」

- ・課題：現在、事業者（地元の飲食店）と連携した定年退職後の男性向けの講座があり大変好評である。事業者との関係性もよく、参加者同士の交流も盛んになってきた中、自主的な活動に育むにはどのような働きかけが必要か。
- ・伴走支援内容と成果：事業者との連携までのプロセスの整理や、この講座が支持されている理由について調査をした。さらに受講生の意欲を引き出すために、講座の成果を発揮する場を公民館が用意することや、対象者（定年退職後の男性）がさらに公民館へ関わりたくなるような分野の講座の計画について伴走を行なった。それらは、令和2年度に実施する予定で実施にあたっても引き続き伴走支援を行なっていく。

舞鶴公民館 「みんなでつくる夜カフェ」

- ・課題：どうすれば事業者との連携し、より効果的な事業をスタートできるかわからない
- 伴走支援内容と成果：事業プラン（条件）を考えた上で、事業者を探し、選定するというプロセスを支援した。もともとの課題であった、20代から50代の人の来館者の増加に対して、これまでとは違うアプローチでの事業企画を考え、「夜カフェ」の開催に向けて伴走支援を行うこととなった。地元の事業者や、ターゲット層のニーズにマッチする事業を手伝ってくれそうな事業者を探し、会の趣旨を説明し、連携して企画立案にこぎつけた。事業実施は令和2年度の予定で、引き続き伴走支援を行なっていく。

ウ) 公民館による地域連携支援の進め方に関するハンドブックの作成

- ・事業目的：「公民館による地域連携支援」に関するノウハウ等を集めたハンドブックを作成する。このハンドブックは、新任からベテランまでの公民館職員が、より主体的に、それぞれの公民館や地域の実情に合った地域連携支援を行っていくために手助けとなるような、ノウハウおよび心構えを学べるものとする。

・実施時期：6月～3月

・内容（各章のタイトルとねらい）

I 地域の未来づくりと公民館の役割

ねらい

事業者との連携も含め、自分なりの考えで自分の地域の実情にあった事業を考えていく際の基礎となる知識を学ぶための章。新任研修でも一通り学ぶ機会はあるが、前任者からの業務の引き継ぎの際には触れられる時間も少なく、必要な時に見返すことができるハンドブックの意義として、最初に「公民館とは」という基礎を押さえておくことは非常に重要である。

Ⅱ 事業者とのつながり方

ねらい

公民館が連携事業のパートナーとなる事業者を探す方法についてのノウハウを集めた章。より積極的な事業者との連携の実現にむけて、能動的に公民館外に出て事業者とつながる方法と、公民館を訪れた事業者と関係を作り、連携のパートナーに高めていく方法の2つを軸にノウハウをまとめた。



Ⅲ 講座のつくり方

ねらい

公民館講座についての意義や流れ、手順やその注意点を学ぶ章。講座をつくるという業務は特に主事にとって多くの労力をさかれる事業となっているが、前任者のやり方を引き継ぐというケースも多く、基本的な知識を網羅したマニュアル等はこれまでなかった。自分で地域の実情に応じた講座を作っていくための基礎知識とあわせて、ベテラン職員にも参考となるように事例紹介では詳細な聞き取りを行った内容を掲載した。



Ⅳ 連携支援の進め方

ねらい

共創のまちづくりに向けて、地域と事業者をつなげる「連携支援」についてのノウハウを集めた章。事業者を紹介するだけでも、連携支援ともいえるが、ここでは、Ⅱ、Ⅲ章で述べてきた公民館が事業者とつながる「連携事業」をベースに連携支援へと高めていく方法を紹介している。

Ⅴ 市内の公民館における連携事業の紹介

ねらい

初任者はもちろん、数年の公民館職員の経験があり日常的に連携を行なっている公民館の方にとっても参考となるような、館長や主事の経験や得意分野から作られた事例を取り上げた章。

【まとめ】

・ハンドブックの構成については、作業部会で決定したハンドブックの目的をもとに組み立てた。連携のノウハウを中心にした内容であるが、昨年度のアンケート結果より、「なぜ公民館が地域連携を促す必要があるのか」や「具体的な「共創」のイメージが持てない」といった声も多く挙がり、前半では、公民館職員としての基礎知識や地域連携支援に対する心構えを伝えることにページを割いた。

・ハンドブックの中で取り上げた事業者との連携は、公民館が事業者とつながる「連携事業」と、公民館が事業者と地域（団体）をつなぐ「連携支援」の二つに分かれ、また「連携支援」については、共働型と紹介・マッチング型とに分かれるということで類型を整理した。これまで、連携についてのイメージが曖昧であった中で、類型を示すことで、連携の理解と意欲につながるものと考えられる。特に、連携支援については、支援の対象となる地域（団体）との関係が公民館ごとに差が大きく、それによって連携支援の捉え方にも温度差がある。全てのパターンを網羅することが難しい内容であったが、各々の状況に応じて進めていくためにも、類型でイメージを共有していくことは必要なことだと考えられるためハンドブックにおいて周知を図りたい。

② 公民館による地域連携支援に関する意識や情報共有

ア) 公開イベントの実施

- ・事業目的：実際に公民館や地域と連携事業を行っている様々な分野の事業者を招き、地域連携についてのきっかけや関係づくり、手法等をテーマにして事業者の声を抽出しつつ、参加者同士が共創のまちづくりに向けた事業者の参画について話し合う場を設ける。

公開イベント：地域×公民館×事業者がつくりだすこれからの地域の未来

地域×公民館×事業者がつくりだす
これがちの地域の未来
2019 11/24 (日) 14:00~16:00
受付: 13:30~
会場: 福岡市舞鶴公民館 講堂
参加費: 無料
申し込み必要
定員: 30名程度 (先着順)
リレートーク
グルースワーク
公民館コラボLABワークショップ「地域×公民館×事業者がつくりだすこれからの地域の未来」
【開催概要】公民館コラボLABワークショップ「地域×公民館×事業者がつくりだすこれからの地域の未来」
日時: 令和元年11月24日(日) 14:00~16:00 (受付: 13:30~) 終了後: 懇話会(要予約)
会場: 福岡市舞鶴公民館 講堂 (福岡市中央区舞鶴7番町2-1) 定員: 30名程度(先着順)
対象: 地域で社会貢献活動に取り組む事業者、公民館職員、行政職員、一般市民
【申し込みについて】参加申し込み要 (会場に直接申し込み可)
【お問い合わせ先】福岡市舞鶴公民館 総務課 092-409-5742
【公民館コラボLAB実行委員会】(福岡市市民局公民館課とNPO法人ふるもとの会共同開催)

- ☐ 日時： 令和元年 11 月 24 日（日） 14:00～16:00
 - ☐ 会場： 福岡市舞鶴公民館 講堂
 - ☐ 対象者： 地域で社会貢献活動に取り組みたい事業者・公民館職員
行政職員・ 一般市民
- 参加人数： 30 名

□プログラム

1) リレートーク : 事業者による地域社会貢献活動の実践例等の取り組みの紹介

「高齢者の社会参加」	公益社団法人福岡市シルバー人材センター 桑田 哲志 氏
「環境系 CSR 推進事業」	株式会社ミカサ 朝日 響 氏
「子育て・男女共同参画」	株式会社マミースマイル 雁瀬 暁子 氏
「イベント企画運営」	NPO法人ハッピーライド 常田 貴清 氏
「高齢者福祉」	一般社団法人いきがいきづくり福岡 八坂 憲道 氏

2) グループワーク

「公民館でつながろう！公民館がつなげよう！」と題し、5～6人ずつのグループに分かれ、現在なぜ事業者と公民館と一緒に地域のことを考えるステージまで至っていないかをそれぞれの立場で話し合い、その後一緒に解決策を探った。



【まとめ】

・公開イベントにおいては、グループワークの内容共有や終了後のアンケートの内容から、公民館と事業者にとってお互いの事業内容や思いを知るよい機会となったと思われる。また、今回参加した事業者は連携に意欲的であると思われるが、そのような事業者にとっても、公民館の役割やルールを理解は曖昧で、情報を得る機会は充分でないことが明らかになった。「公民館とは」という情報の提供とともに、公民館側もそれを前提として訪問してきた事業者との対話を進める必要があることを、ハンドブックなどを通じて共有していきたい。

イ) 公民館フォーラム

- ・事業目的： 公民館の機能を活かした地域連携支援の必要性に関する意識の共有を図る。
伴走支援館の事例発表を通じ、連携事業の取組方法等に関する情報共有を図る
- ・開催日時： 2020年1月29日（水）13:30～16:20

- ・ 開催場所： 福岡市中央区市民センターホール
- ・ 対象者： 福岡市内の全公民館館長、主事等



【まとめ】

- ・ 地域連携支援の必要性に関する意識は昨年度のヒアリングや公民館フォーラムを経て、高まってきている。本年度はさらなる連携の必要性の理解促進と意識の向上とめざすと共に、暗黙知となっている公民館職員の業務を明らかにすることで、フォーラムで得た知識を校区や公民館に持ち帰り、明日から活用したり、次年度の計画に取り入れてみるといった、即時の行動の変化につながるような情報を共有することをねらいとした。福岡大学の添田先生の講話「事例検討の作法」に続き、事例発表3館（堅粕、宮竹、舞鶴公民館）には、実践の内容だけではなく心構えや具体的な働きかけの方法など実践の細かな内実を発表していただいた。また、美野島公民館の介護教室「あんしん美野島コンシェルジュ」の発表では、この事業ができるまでのキーパーソンとなった区の保健師や連携相手の介護事業者ネットワークの代表者にも登壇いただき、事業ができるまでの細かなやり取りを発表していただいた。その結果、後述のアンケートに見られるように、行動変容につながる学びを提供できた。

5 NPOと市の役割分担

	福岡市	← 共働 →	ドネルモ
1 公民館による地域連携支援の仕組みづくり	- 検討会議の連絡調整 - 地域連携支援に向けた仕組み構築 - 市の方針等実情を踏まえたハンドブックの検討	- 検討会議の実施 - 地域連携支援が実践できる仕組み検討 - 手引きの内容検討	- 効果的な検討会議の企画 - 地域に有用な仕組みの検討 - 手引きのデザイン等の検討
2 公民館による地域連携支援に関する意識や情報共有	区、公民館への連絡調整	- 公開イベント企画運営・広報 - 公民館フォーラムの企画運営	- 効果的なイベント・フォーラムの企画・進行 - 事業者への連絡調整 - フォーラム発表館との打合、サポート

共働事業の特性を最大限に活かし、

- NPO法人ドネルモと福岡市公民館支援課が対等な立場で意見交換を行う中で、**互いのアイデアや意見を尊重し実施**していくことにより、**効果的な事業を実施**
- NPO法人ドネルモのアイデアにより、**当初予定になかった公民館職員以外も対象にした「公開イベント」**等、弾力的に取り組んでいくことにより、事業を充実などの取組を行っている。

6 担当者の声・市民の声

「公民館による地域連携支援に関する情報共有及び意識共有」を目的に開催した公開イベントにおいて、公民館職員、事業者から出された意見

【グループワークの内容共有にて】

- ・ 今後公民館と事業者がつながるためには、お互いの事情や状況を知ろうと努力し、伝え合うことが必要
- ・ つながった後、協働していくためには「日頃からの顔の見える関係」が必要
- ・ 地域の現代的課題の解決には地域だけの力では難しいことを公民館がきちんと意識をして、事業者に要求をするだけではなく、WIN-WIN の関係を探っていく必要がある

【アンケートにて】

- ・ 事業者側にとっての営利目的かどうかの判断が難しいが、今日話を聞いてもう少しラフに考えていいのかと思った。（公民館職員）
- ・ 事業者側の共創についての考え方がよく分かった。（公民館職員）
- ・ コラボしたい、見学したい相手が見つかった。（公民館職員）
- ・ 公民館側が考えていることやルールの必要性、つながり、何に悩んでいるのかを知ることができた。お互いのルールを知るということは大切なことだと思った。（事業者）
- ・ 公民館や行政側が事業者との連携についてどのように感じているのか、本音の部分を聞くことができたのがありがたかった。（事業者）
- ・ 信頼関係がやはり大事（事業者）

「公民館による地域連携支援に関する情報共有及び意識共有」を目的に開催した「公民館フォーラム」において、公民館館長や主事より出された意見

昨年度は「連携/共創のまちづくりの必要性の理解が深まった」「連携/共創のまちづくりのやり方についての気づきがあった」という連携の必要性への理解促進や連携方法の気づきについての感想が多く聞かれた。今年度は、それに加え、フォーラムの内容を明日からの具体的な行動に移していく意欲的な感想が多く出されていた。

- ・ 公民館も地域に合った事業を行うだけでなく、アピールしたいターゲットを分けて行えば、もっとためになる講座などできると感じた。（西区・主事）
- ・ 公民館広報として、近隣企業に公民館便り配布、館長の挨拶をきっかけとして、つながりを持ちたい（西区・館長）
- ・ 普段からのコミュニケーションや人との繋がりがいい出会いにつながることもあるので、明日から意識して行なっていきたいです（早良区・主事）
- ・ 勇気を出して一歩踏み出すことが大事だと思います。より多くの方々に公民館のことを知ってもらえるよう行動に移していきます（早良区・主事）
- ・ これまで、「丸投げ」は主体性がなく、良くないものと思っていましたが、専門家に任せてタイムリーな住民のニーズに合わせたものを提供できるという点では、企画内容を丸ごと任せてしまうのもありだと気がついた。今後検討してみたい（中央区・主事）
- ・ 介護関連事業所のネットワークもありお世話になっているのですが、もっと話し合いを重ね、公民館事業に行きしていきたいと思いました（早良区・主事）
- ・ 事業を見通し、整理することは必要だと感じました（早良区・主事）
- ・ 講座のネーミングは大事なことだと気付かされました。同じ内容でもネーミングで気を引ける。ユニークな講座名に変えてみようかな（城南・館長）

7 令和2年度への展開

今年度の事業を通じて、公民館が地域連携のコーディネートを行っていくための環境整備をすすめてきた。連携には地域の実情に合わせた様々な形がある中で、連携事業や連携支援を通じて地域リソースの分母を広げ新たな担い手づくりや動的で多様な主体の関わる住民自治・団体自治の展開につながっていることもわかってきた。令和2年度以降は、より多くの公民館が日常的に地域連携支援を行えるように、これまで取り組んできたハンドブックの活用や仕組みの実装といった事業を行うとともに、これからの福岡市の公民館のスタンダードを実行委員会だけでなく公民館を実際に支えている地域支援課と一緒に考えていきたい。

●令和2年度（3年目）の主な取組内容

①公民館職員参加型の「ハンドブック活用検討会議」の開催

各区公民館職員との「ハンドブック活用検討会議」を実施し、ハンドブック（業務マニュアル）の表現や周知方法等について、現場職員の立場による意見やアイデアを収集し、活用方法を共に検討をする場を設ける。

②公民館連携ハンドブックの最終版の作成

実行委員会内で昨年度作成したハンドブックについて協議・修正等を行い、最終版の初稿を完成させる。そのうち、福岡市各区地域支援課と内容に関する確認・調整を行い、全市的にオーソライズされたかたちでの完成を目指す。

③公民館連携ハンドブックに関する地域支援課への説明・共有

各区地域支援課職員（各区数名）を対象にハンドブックの内容と活用方法について説明・共有する場（全区合同で1回の開催を予定）と、ハンドブックの活用方法や運用方針について区ごとの方向性を検討・調整する場（各区で1回の開催を予定）を設ける

④連携事業・連携コーディネート推進のための環境整備

- ・前年度の作業部会で決定した方針を基に、運営方針・運営報告の書式改訂を行う。（R3年度「運営方針」の書式配布より実施）
- ・行政サポートとして、講師情報サイトの整理、おすすめ講座一覧の書式整備及び共有を進める

⑤公開イベントの企画運営

事業者や一般市民向けに、公民館の役割を知らせ、意見を広く集めるイベントを開催する。

⑥ 公民館フォーラムの開催

公民館フォーラムの中で、モデル館における連携事業の取り組み方等に関する情報共有や・公民館の機能を活かした地域連携支援のあり方について意識の共有を図る。

⑦ 公民館に対して連携支援についての意識や実施件数についてのアンケート

コラボ LAB 事業の初年度からの意識や連携の実態の変化について調べるために、WEBによるアンケート調査を行う。

⑧ 事業者との連携事業の伴走支援

令和元年度に伴走支援を実施した3館について、昨年度作成した事業計画のフォローアップを実施する（新規の伴走支援はなし）。